

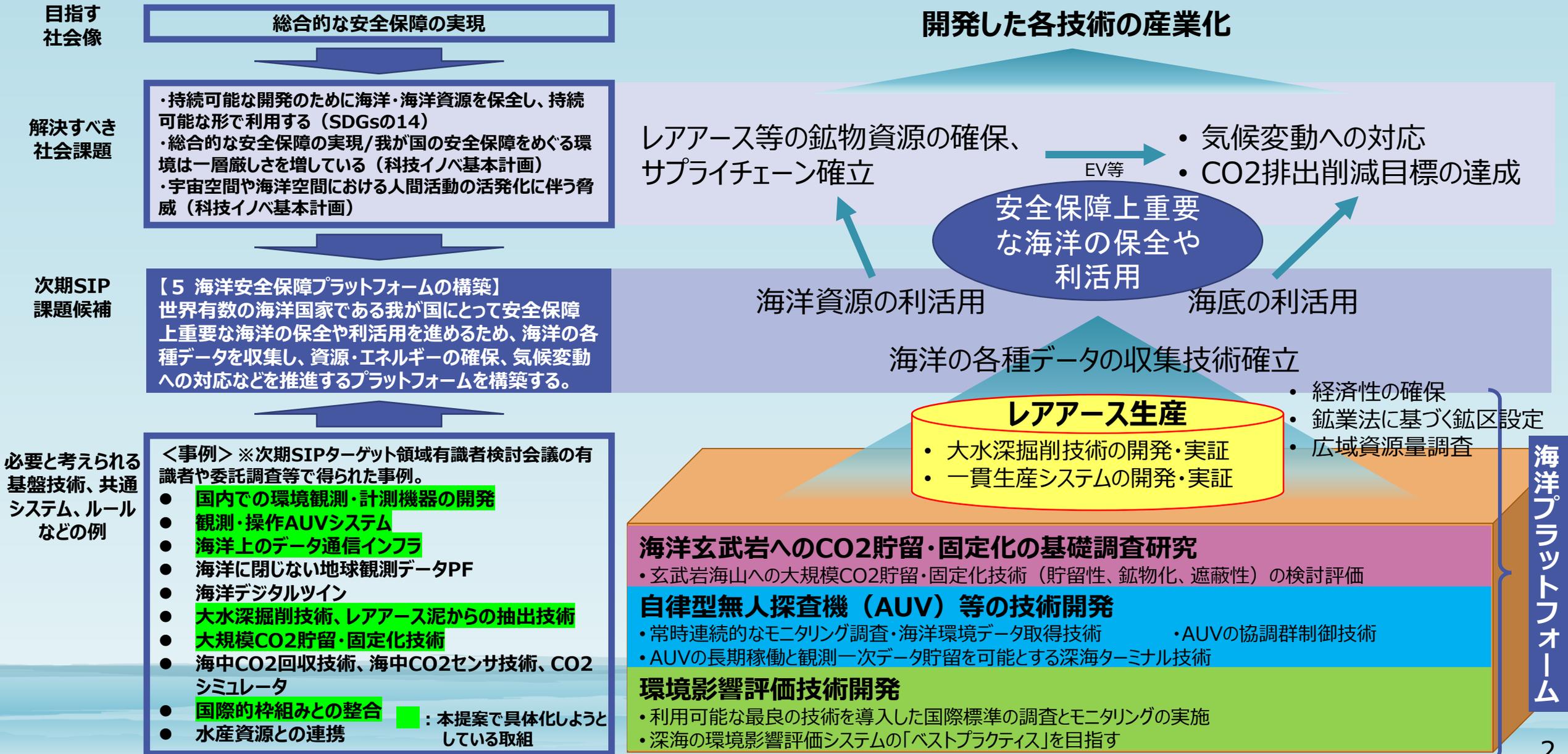
次期SIP課題候補

海洋安全保障プラットフォームの構築

2022年8月25日

プログラムディレクター候補
石井 正一

1. 設定されているターゲット領域（次期SIPの課題候補）



2. FS実施方針（1）

＜課題候補のコンセプト＞

安全保障上重要な海洋の保全や利活用を図るため、海洋資源の産業化、気候変動への対応及び海洋の各種データの収集が可能な海洋プラットフォームの構築を目指す。

＜目指すべき社会像＞

広大な排他的経済水域（EEZ）を有する我が国において、海洋環境に配慮した安全保障上重要な海洋・海洋鉱物資源の調査及び持続可能な利活用を図ると共に、温暖化対策に資するCCS技術の一環として玄武岩海山を利用した大規模CO2貯留・固定化技術に関する基礎調査研究を行うことにより、2050年のカーボンニュートラルの実現にも貢献

＜実現にあたっての社会課題＞

- 世界のレアアース資源供給は特定国に依存することから、その安定供給を図る目的で、我が国のEEZ内に賦存するレアアース資源の経済性のある開発・生産・供給に向けた研究開発が必要
- 我が国の陸域や沿岸域におけるCO2貯留は、貯留量が極めて限定的であるので、我が国EEZにおける大規模なCO2貯留・固定化技術の基礎調査研究が必要

2. FS実施方針（2）

<解決法とSIPで取り組むべきサブ課題の選定理由>

- ①レアアース資源 2027年度までに、経済性を確保したレアアースの開発・実証を行う。
- ②CCS基礎研究 RFIにて提案のあった海域の玄武岩海山を利用した大規模CO2貯留・固定化技術に関する基礎調査研究を行う。
- ③AUVのネットワーク 海洋立国としての我が国が今後とも資源調査などにおいてこれを有効利用するために、自律型無人探査機（AUV）、深海ターミナル等を高機能化するとともに、AUVや「江戸っ子」等の機器を用いたモニタリングシステムを構築し、海洋資源開発や大規模海底CO2貯留に伴うモニタリングへの展開を実証する。
- ④環境影響評価 深海域モニタリングなどの環境影響評価に用いる観測データの取得と有効活用を行う。
- ⑤産業化への取り組み ①、③、④は、これまでのSIPで培ってきた経験と成果を踏まえ、産業化に向けた具体的取
展開を実証する。
- ⑥RFIからの課題 我が国の安全保障上、極めて重要な海洋の保全や利活用に資するRFI提案を抽出し、研
究課題に活用する。

*** 本計画により、海洋資源の産業化、気候変動への対応、そして海洋の各種データを収集可能な海洋プラットフォームを構築することにより、我が国の安全保障上、極めて重要な海洋の保全や利活用に貢献**

3. 進捗状況（1）

- 6月14日** ○**検討タスクフォース（TF）参加省庁への事前説明会**
検討TFに参加する4省庁の5部局の参加の下で、フィージビリティスタディ（FS）の進め方やTFの運営要領、FSの実施方針などについて事前説明
- 24日** ○**第1回 検討TFの開催**
4府省、有識者、研究推進法人の15名の参加の下で、「（1）次期SIPの検討状況、FSの進め方」を説明の後、「（2）TFの設置要領（3）TFの構成員（4）FSの実施方針」を決定した。
- 29日** ○**第1回 WG実務者定例会合（ワーキンググループの実務者）開催**
主にSIP第2期のメンバーと第3期に向けて有望なRFIを提出したメンバーの参加の下で、次期SIPに係る取り組み方や予算、今後の進め方について議論を実施。
- 7月 1日** ○**JAMSTECに「海洋安全保障プラットフォーム構築プロジェクト準備室」を設置し、人員を配置。**
- 6日** ○**第1回 関係府省連絡会の開催**
提携する8府省と研究推進法人の17名の参加の下で、第1回検討TFの決定内容の周知を図り、今後の協力体制を確認した。
- 11日** ①**第1回 ワーキンググループ（WG）開催**
内閣府、関係研究機関や企業のメンバー約30名の参加で、検討TFにおける決定内容の周知と関係府省連絡会の開催報告とFSに向けての今後の具体的な業務内容の確認を行なった。
- ②調査分析機関の公募を開始
TFの決定に基づき、FSに向けて調査分析機関（シンクタンク）の公募を行なった。

3. 進捗状況 (2)

7月

11~15日 ○サブ課題候補ごとに予算案を提出させ、研究推進法人によるヒアリングを実施

25日 ○第2回 WG実務者定例会合 1)予算案調整・FS実施方針改訂案作成、2)2023年度航海調整

27日 ○第2回 検討TFの開催

予算を決定し、FS実施方針を改訂。→各種調達・委託契約の手続きを開始。

8月 1日 ○第2回 ワーキンググループ (WG) 開催

1)次期研究計画の概要議論、2)FSの進捗状況報告

8日 ○第3回 WG実務者定例会合

1)研究推進法人内体制変更、2)オープン・クローズ戦略、3)第3期における出口目標と最終目標案

22日 ○第4回 WG実務者定例会合

1)サブ課題候補別工程表案、2)FSの進捗状況報告

(予定) 25日 ○ガバニングボードへのFS進捗報告

(予定) 29日 ○第5回 WG実務者定例会合

(その他)

5月30日 環境影響評価関係ではJAMSTECからのRFI提案についてのヒアリングを実施。

→提案を整理し、環境影響評価に関する個別研究計画案に反映させるための原案を作成。

6月28日 CCS関係でRFI提案があった東北大学へのヒアリングを実施し、CCS研究の提携大学として研究計画案の策定に関与し、提案を反映させる事になった。